

学校における「いじめ」は今も極めて憂慮すべき事態が続いています。文部科学省が8月4日に発表した、全国小中高校などを対象とした10年度の「問題行動調査」の結果でも、学校が把握し

たいじめは前年度から2517件増の7万5295件に上りました。

この調査で特に注目すべき点は、いじめを把握した端緒が児童生徒へのアンケートだった場合が26・0%と

いじめに立ち向かう

なり、「本人の訴え」（23・1%）、「学級担任が発見」（19・9%）を上回って一番多かったことです。いじめの発見・防止には、学校側の積極的な取り組みが不可欠であることを示すもので

す。

いじめは社会全体のゆがみを反映した根の深い問題です。学校での取り組みを二層充実させるとともに、家庭・地域も真剣に立ち向かわなければならぬ問題です。

防犯一口メモ